

令和7年度(2025年度)

学校説明会資料

年間指導評価計画



指導目標		<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①社会生活に必要な国語について、その特性を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>②社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>③言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してどの能力の向上を図る態度を養う。</p>
評価観点	知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
	思考・判断表現	筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
	主体的に取り組む態度	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。	書写 楷書	観察 点検	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・プリント ・提出物 ・机間巡視 ・ペアワーク
	文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考える。	朝のリレー		
	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉える。	竜		
	単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深める。	文法一言葉の単位	確認	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・漢字テスト ・聞き取りテスト ・漢字テスト ・確認テスト
	中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握する。	クジラの飲み水		
	単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。	文法一文の組み立て	分析	<ul style="list-style-type: none"> ・暗唱テスト ・発表、プレゼン ・ワークシート ・創作物、制作物
	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。	空中ブランコ乗りのキキ		
	音声の働きや仕組みについて理解を深める。	話し言葉と書き言葉		
	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写をもとに捉える。	字のない葉書		
	比喩・反復・倒置・体言止めなどの表現技法を理解して使う。	比喩・倒置・反復・対句・体言止め		
<ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。 ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 	スピーチ			

2 学 期	音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。	古典の仮名遣い
	古典には様々な種類の作品があることを知ること。	月を思う心
	音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。	竹取物語
	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。	文法—単語の種類・名詞・接続詞・感動詞
	古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して古典の世界に親しむ。	故事成語—矛盾
	字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。	書写 楷書
	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すこと。 	意見文
	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。	文法—用言
目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。	トロッコ	
3 学 期	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。	少年の日の思い出
	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方について理解を深め、使う。必要な情報に着目して要約し、内容を解釈する。	意味と意図
	比較や分類、関係づけなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。	防災に関するデータ 「みんなでいるから大丈夫」の怖さ

指導目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力の育成を目指す。 ①社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ②社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ③言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
評価観点	知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
	思考・判断 表現	論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。
	主体的に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、言葉を適切に使おうとしている。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標(身につける力)	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。	名づけられた葉	観察 点検	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・プリント ・提出物 ・机間巡視 ・ペアワーク
	論点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える。	*宇宙に行くための素材 *人間は他の星に住むことができるのか		
	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。	文法 形容詞・形容動詞(用言)	確認	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・漢字テスト ・聞き取りテスト ・確認テスト
	論点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える。	短歌の世界 短歌十首		
	類義語と対義語、同音異義語や多義語的な意味を表す語などについて理解して使い、語感を磨き語意を豊かにする。	類義語・対義語、多義語	分析	<ul style="list-style-type: none"> ・暗唱テスト ・発表、プレゼン ・ワークシート ・創作物、制作物
	全体の部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉える。	セミロングホームルーム		
	単語の類別について理解する。	文法 副詞・連体詞		
	根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、考えが伝わる文章になるように工夫する。	短歌・俳句		
	言葉には、相手の行動を促すはたらきがあることに気づく。	言葉のはたらきとコミュニケーション		
資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する。	プレゼンテーション			
現代語訳や語注などを手がかりに作品を読み、古典に表れたものの見方や考え方を知る。	枕草子・徒然草			
目的や場面に応じて、社会生活の中から題材を決める。	私の「枕草子」「徒然草」			

	敬語のはたらきについて理解し、話や文章の中で使う。	敬語の意味と種類
	全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示の関係などを捉える。	壁に残された伝言
	登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈する。	平家物語
	熟語の組み立て方を理解する。	熟語の構成
	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。	文法 助動詞
	作品の特徴を活かして朗読し、古典の世界に親しむ。	漢詩の世界
	観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える。	漢詩の形式
	読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整える。	手紙・メール
	文章と図表などを結び付け、その関係をふまえて内容を解釈する。	100年後の水を守る
	抽象的な概念を表す語句の量を増やす。	上位語・下位語
	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく早く書くこと。	書写 行書
	単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。	文法 助詞
	情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し、使う。	共生社会に関するデータ
	目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈する。	自立とは「依存先を増やすこと」
	表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などをふまえ、自分の文章の良い点や改善点を見出す。	創作文
3 学 期	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。	大阿蘇
	全体の部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方などを捉える。	小さな手袋
	全体と部分との関係に注意しながら、首長と礼二の関係などを捉える。	動物園でできること
	登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈する。	走れメロス
	伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫する。	論説文
	抽象的な概念を表す語句の量を増やす。	漢字のしくみ 漢字を身につけよう
	論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる。	グループディスカッション
	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめる。	情報誌

指導目標		<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①社会生活に必要な国語について、その特性を理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>②社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>③言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してどの能力の向上を図る態度を養う。</p>
評価観点	知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解している。
	思考・判断 表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
	主体的に取り 組む態度	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度をもっている。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。	言の森	観察 点検	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート、プリント ・提出物 ・机間巡視 ・ペアワーク
	文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。	握手		
	話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。	表現につながる文法		
	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。 ・目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。 	俳句の世界・俳句十句	確認	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・漢字テスト ・聞き取りテスト
	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	和語・漢語・外来語	分析	<ul style="list-style-type: none"> ・暗唱テスト ・発表、プレゼン ・ワークシート ・創作物（作文など）
文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。	間の文化			
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。 ・場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 	和歌の世界		
	理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	慣用句・ことわざ・故事成語		
	文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。	フロン規制の物語		
	歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、そ	おくのほそ道		

	<p>の世界に親しむこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。 ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。 	論語
	<ul style="list-style-type: none"> ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。 ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。 	見たいものだけ見る 私たち
	<p>身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。</p>	書写
	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。 ・表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。 ・論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。 	課題作文
3 学 期	<p>文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。</p>	初恋
	<p>文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。</p>	故郷

指導目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	思考・判断 表現 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体的に取り 組む態度 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	世界の地域構成の特色を理解し、大洋と海洋の分布、国の位置や緯度・経度に着目して表現できる。	世界の姿	観察 点検	机間巡視 ノート 振り返りシート レポート ワークシート 課題
	日本の地域構成を理解し、その特色を周辺の海洋の広がりや国土の位置から考え、表現できる。	日本の姿		
	世界各地における人々の生活の特色や変容について理解し、その理由を場所や自然条件から考察し、表現できる。	世界各地の人々の生活と環境		
	各州の地球的課題を理解し、その要因や影響をそれらの地域の広がりや地域内の結びつきから考え、表現できる。	世界の諸地域 ①アジア州～②ヨーロッパ州		
2 学 期	各州の地球的課題を理解し、その要因や影響をそれらの地域の広がりや地域内の結びつきから考え、表現できる。	世界の諸地域 ③アフリカ州～⑥オセアニア州	確認	単元テスト 定期テスト 自主学習確認テスト
	時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりから、歴史上の人物や文化財、出来事の時代区分との関わりについて理解する。	歴史へのとびら		
	東アジアとの交流と政治や文化を理解し、その変化から、古代の社会の変化の様子を考え、表現できる。	古代までの日本		
3 学 期	東アジアにおける交流、農業や商工業の発達について理解し、それらから中世の社会の変化の様子を考え、表現できる。	中世の日本	分析	ノート レポート ワークシート 単元のまとめ

指導目標		社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	思考・判断表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体的に取り組む態度	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名（地理：東京書籍） （歴史：東京書籍）	評価の場面・方法	
1 学 期	自然環境や人口などから日本の地域的特色を理解し、それらが抱える課題について考察し、表現できるようになる。	日本のさまざまな地域 日本の地域的特徴と地域区分(地理)	観察 点検	机間巡視 ノート 振り返りシート レポート ワークシート 課題
	各地方の自然環境や人口、産業などから生じる課題を理解し、それらを地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などから考察し、表現できるようになる。	日本の諸地域 九州地方～関東地方 (地理)		
2 学 期	各地方の自然環境や人口、産業などから生じる課題を理解し、それらを地域の広がりや地域内の結びつき、人々の対応などから考察し、表現できるようになる	日本の諸地域 東北地方～北海道地方 (地理)	確認	単元テスト 定期テスト 自主学習確認テスト
	産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などを理解し、近世の社会の変化の様子について考察し、表現できるようになる。	近世の日本 ヨーロッパ人の来航～化政文化 (歴史)		
3 学 期	近代化がもたらした文化への影響、経済の変化、政治への影響などを理解し、近代の社会の変化の様子について考察し、表現できるようになる。	開国と近代日本の歩み 欧米の近代化～明治維新 (歴史)	分析	ノート レポート ワークシート 単元のまとめ

指導目標		社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
	思考・判断 表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
	主体的に取り 組む態度	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	日本の産業革命、国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展から、産業の発展と近代文化の形成について考え、説明できるようになる。	日清・日露戦争と近代産業	観察 点検	机間巡視 ノート 振り返りシート レポート ワークシート 課題
	戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関連から、近代の社会の変化の様子を考え、説明できるようになる。	二度の世界大戦と日本		
	歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって考え、説明できるようになる。	現代の日本と私たち		
2 学 期	少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について考え、説明できるようになる。	私たちと現代社会 中学社会公民的分野	確認	単元テスト 定期テスト 自主学習確認テスト
	民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加について考え、説明できるようになる。	私たちの生活と政治 中学社会公民的分野		
	個人や企業の経済活動における役割と責任について考え、説明できるようになる	私たちの生活と経済 中学社会公民的分野	分析	ノート レポート ワークシート 単元のまとめ
個人や企業の経済活動における役割と責任について考え、説明できるようになる	私たちの生活と経済 中学社会公民的分野			
3 学 期	日本国憲法の平和主義を基に、国際社会における国の役割について考え、構想し、説明できるようになる	私たちと国際社会 中学社会公民的分野		
	身近な地域や我が国の取組との関連性から、世界的な視野と地域的な視点に立って探求できるようになる。	私たちの課題 中学社会公民的分野		

指導目標		数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成することを目指す
評価観点	知識・技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
	思考・判断 表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う・
	主体的に取り 組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の課程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	負の数の意味を理解し、正負の数の必要性和有用性を知る。	1章 正の数・負の数	観察 点検	机間巡視、ノート、ペアワーク、グループワーク、宿題、問題集、提出物、レポート課題
	正負の数の四則について、計算ができる。	1章 正の数・負の数		
	数の概念について理解を深め、具体的な場面で、正負の数を用いて表現したり、処理したりできる。	1章 正の数・負の数		
	文字を使って、数量や数量の関係などを式に表し、文字の必要性和意味を理解する。	2章 文字の式		
	文字の式について、計算ができる。	2章 文字の式		
	数量の関係を等式や不等式に表すことができる。	2章 文字の式		
	図形の移動の意味と、その性質について理解する。	5章 平面図形		
2 学 期	方程式の必要性和意味、及びその解の意味について理解する。	3章 方程式	確認	定期テスト 単元テスト 小テスト
	一元一次方程式、比例式を解くことができる。	3章 方程式		
	方程式や比例式を問題解決に利用することができる。	3章 方程式		
	関数、比例、反比例、座標の意味を理解する。	4章 変化と対応		
	比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解する。	4章 変化と対応		
	比例、反比例の見方を、具体的な事象の考察に利用できる。	4章 変化と対応		
	基本的な作図のしかたについて理解し、それを利用することができる。	5章 平面図形		
3 学 期	おうぎ形について、弧の長さや面積を求めることができる。	5章 平面図形	分析	定期テスト 単元テスト 小テスト レポート課題
	立体模型や、その見取図、展開図、投影図についての観察、操作や実験を通して、立体についての理解を深める。	6章 空間図形		
	空間における平面や直線の位置関係を理解する。	6章 空間図形		
	立体について、表面積や体積を求めることができる。	6章 空間図形		
	度数分布表やヒストグラム、代表値の必要性和意味を理解する。	7章 データの活用		
	度数分布表やヒストグラム、代表値を用いて資料の傾向をとらえ、目的や文脈に応じた判断ができる。	7章 データの活用		
	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解する。	7章 データの活用		

指導目標	数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成するを目指す
評価観点	知識・技能 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
	思考・判断 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
	主体的に取り組む態度 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の課程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	文字を用いた式に関するいろいろな用語の意味を理解する。	式の計算	観察 点検	机間巡視、ノート、ペアワーク、グループワーク、宿題、問題集、提出物、レポート課題
	単項式、多項式での加法、減法、及び、単項式の乗法、除法の計算ができる。	式の計算		
	文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明することができる。	式の計算		
	目的に応じて簡単な等式を変形できるようにする。	式の計算	確認	定期テスト 単元テスト 小テスト
	連立二元一次方程式の必要性と意味、及びその解の意味を理解する。	連立方程式		
	連立二元一次方程式の解法を理解し、その解法に習熟する。	連立方程式		
2 学 期	問題解決の場面で、連立二元一次方程式を活用できるようにする。	連立方程式	分析	定期テスト 単元テスト 小テスト レポート課題
	一次関数の特徴を理解し、一次関数のグラフがかけるときの、その直線の式が求められるようにする。	一次関数		
	一次関数のグラフと二元一次方程式のグラフや連立方程式の解とグラフとの関係を明らかにする。	一次関数		
	具体的な事象を一次関数とみなし、それを問題解決に利用できる。	一次関数		
	対頂角の性質、平行線と角、三角形の内角の和、多角形の角に調べる。	図形の性質と証明		
	合同な図形の性質、三角形の合同条件、「証明」しくみを理解する。	図形の調べ方		
3 学 期	平行線と角の関係や三角形の合同条件を根拠にした証明の進め方、図形の性質の調べ方について理解する。	図形の調べ方		
	三角形の合同条件を使って、二等辺三角形の性質を証明し、図形の性質の調べ方を理解する。直角三角形の合同条件を導き、その使い方を理解する。	図形の性質と証明		
	平行四辺形の性質や平行四辺形になる条件について理解する。長方形、ひし形、正方形と平行四辺形の関係、平行線による等積変形などについて理解する。	図形の性質と証明		
	確率の必要性と意味を理解し、簡単な場合について確率を求める。	確率		
	確率を用いて不確定な事象をとらえ説明することができようにする。	確率		
四分位数と箱ひげ図を理解してデータに活用する。	箱ひげ図とデータの活用			

指導目標		数学的な見方、考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す
評価観点	知識・技能	数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
	思考・判断 表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う・
	主体的に取り 組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の課程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	単項式と多項式の乗法、及び多項式を単項式でわる除法の計算ができる。	1章 式の展開と因数分解	観察 点検	机間巡視、ノート、ペアワーク、グループワーク、宿題、問題集、提出物、
	簡単な一次式どうしの乗法の計算、及び公式を用いた式の展開や因数分解ができる。	1章 式の展開と因数分解		
	式の展開や因数分解を利用して、数量の関係や図形の性質をとらえ説明できる。	1章 式の展開と因数分解		
	平方根の意味を理解する。	2章 平方根	確認	定期テスト 単元テスト
	数の平方根の中には有理数でないものがあることを知り、有理数、無理数についての理解を深める。	2章 平方根		
	具体的な場面で、数の平方根を用いて表したり、処理したりできる。	2章 平方根		
	二次方程式の必要性と意味、及びその解の意味を理解する。	3章 二次方程式	分析	定期テスト 単元テスト
平方根を求める方法で、二次方程式を解けるようにする。	3章 二次方程式			
解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くことができる。	3章 二次方程式			
2 学 期	因数分解を利用して二次方程式を解くことができる。	3章 二次方程式		
	二次方程式を具体的な場面で活用し、問題解決ができる。	3章 二次方程式		
	関数 $y = ax^2$ について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解する。	4章 関数 $y = ax^2$		
	関数 $y = ax^2$ を用いて具体的な事象をとらえ、説明できる。	4章 関数 $y = ax^2$		
	三角形の相似条件を知り、それを使って図形の性質を証明することができる。	5章 図形と相似		
	平行線と線分の比についての性質を見だし、それを活用することができる。	5章 図形と相似		
	基本的な立体の相似の意味と、相似な図形の相似比と面積比、及び体積比の関係について理解する。	5章 図形と相似		
	円周角と中心角の関係の意味とその証明を理解する。	6章 円		
	円周角の定理の逆の意味を理解する。	6章 円		
	円周角と中心角の関係などの円の性質を、具体的な場面で活用して論理的に考察し、それを説明できる。	6章 円		
3 学 期	三平方の定理とその証明、三平方の定理の逆とを理解する。	7章 三平方の定理		
	三平方の定理を用いて考察したり、具体的な場面で活用したりできる。	7章 三平方の定理		
	標本調査の必要性と意味を理解する。	8章 標本調査		
	簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向をとらえ説明できる。	8章 標本調査		

指導目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。	
評価観点	知識・技能	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
	思考・判断 表現	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う
	主体的に取り 組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う

学習計画			評価にあたって		
時期	単元目標(身につける力)	教材名(未来へひろがるサイエンス1)		評価の場面・方法	
1 学 期	いろいろな生物の特徴を見つけ、比べられる	自然の中にあふれる生命		観察 点検	宿題 机間巡視、ノート ペアワーク、問題集
	身近な生物についての観察、実験などを通していろいろな生物の共通点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現すること。	物 と そ の 特 徴	1章 植物の特徴と分類		
			2章 動物の特徴と分類		
2 学 期	身のまわりの物質について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現すること。	身 の ま わ り の 物 質	1章 いろいろな物質とその性質	分析	レポート、自由研究
			2章 いろいろな気体とその性質		
			3章 水溶液の性質		
			4章 物質のすがたとその変化		
3 学 期	身近な物理現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。	に 光 ・ 音 ・ 力 の 現 象	1章 光による現象		
			2章 音による現象		
			3章 力による現象		
3 学 期	大地の成り立ちと変化について、問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現すること。	活 き て い る 地 球	1章 身近な大地		
			2章 ゆれる大地		
			3章 火をふく大地		
			4章 語る大地		

指導目標		自然の事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
評価観点	知識・技能	自然の事物・現象についての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
	思考・判断 表現	観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う
	主体的に取り 組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり，科学的に探究しようとする態度を養う

学習計画				評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名（未来へひろがるサイエンス2）		評価の場面・方法	
1 学期	理科の見方・考え方をはたらかせながら，化学変化と原子・分子に関する探究的な学習を通して，物質の成り立ち，化学変化，化学変化と物質の質量についての理解を深めさせるとともに，観察・実験などを行うための基本的な技能を習得させ，科学的に探求するために必要な思考力・判断力・表現力を主体的に探求しようとする態度を養う。	原子・化学変化と分子	1章 物質の成り立ち	観察 点 検	宿題 ノート 班活動 実験等 問題集
			2章 物質の表し方		
			3章 さまざまな化学変化		
			4章 化学変化と物質の質量		
2 学期	生物の体のつくりとはたらきについて，見通しを持って解決する方法を立案して観察，実験などを行い，その結果を分析・解釈し，生物の体のつくりとはたらきについての規則性や関係性を見いだして表現させる。	生物の体のつくりとはたらき	1章 生物の体をつくるもの	確認	定期テスト 小テスト 単元テスト 実技テスト
			2章 植物の体のつくりとはたらき		
			3章 動物の体のつくりとはたらき		
			4章 動物の行動のしくみ		
3 学期	理科の見方・考え方をはたらかせながら，電流とその利用に関する探究的な学習を通して，電流と電圧，電流のはたらき，静電気，電流と磁界について理解を深めさせるとともに，観察・実験などを行うための基本的な技能の習得，科学的に探求するために必要な思考力・判断力・表現力や主体的に探求しようとする態度を養う。	電流とその利用	1章 電流の性質	分析	レポート、 自由研究
			2章 電流の正体		
			3章 電流と磁界		
3 学期	理科の見方・考え方を働かせながら，気象とその変化に関する探究てえ来な学習を通して，天気の変化や日本の天気の特徴の理解を深めさせるとともに，観察・実験などを行うために必要な基本的な技能を習得させ，思考力・判断力・表現力や主体的に探求しようとする態度を養う。	地球の大気と天気の変化	1章 地球をとり巻く大気の様子		
			2章 大気中の水の変化		
			3章 天気の変化と大気の動き		
			4章 大気の動きと日本の四季		

指導目標		学習の目標と見通しをもち、理科の見方・考え方を働かせながら、自然の事物・現象に関わり、観察・実験等に取り組みさせる。そして、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
	思考・判断 表現	観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
	主体的に取り 組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

学習計画			
時期	単元目標	教材名（未来へひろがるサイエンス3）	
1 学 期	生命の連続性の観察や実験を行い、その結果を共通性・多様性の視点で捉え、生命の連続性に関する事物・現象の特徴や規則性を見だし探求の過程を振り返る。	生命の連続性	1章 生物のふえ方と成長
			2章 遺伝の規則性と遺伝子
			3章 生物の種類の多様性と進化
	化学変化とイオンに関する探究的な学習を通して、水溶液の電気伝導性や電池のしくみ、中和反応についての理解を深める。	化学変化とイオン	1章 水溶液とイオン
			2章 電池とイオン
			3章 酸・アルカリと塩
2 学 期	運動とエネルギーに関する諸現象についての観察や実験を行い、その結果を量的な関係で捉えさせることで、運動やエネルギーに関する規則性を理解する。	運動とエネルギー	1章 力の合成と分解
			2章 物体の運動
			3章 仕事とエネルギー
			4章 多様なエネルギーとその移り変わり
			5章 エネルギー資源とその利用
	身近な天体の観測や実験を行い、その観測記録などをもとに、天体とその運動のようすを地球の運動と関連づけながら、時間的・空間的な視点で理解する。	宇宙を観る	1章 宇宙の天体
2章 太陽と恒星の動き			
3章 月と金星の動きと見え方			
3 学 期	これまでの学習を活用しながら、自然と人間のかかわり方や科学技術の発展と人間生活とのかかわり方について、多面的、総合的に捉える。	自然と人間	1章 自然界のつり合い
			2章 さまざまな物質の利用と人間
			3章 科学技術の発展
			4章 人間と環境
			5章 持続可能な社会をめざして

評価にあたって	
評価の場面・方法	
観察点検	宿題 ノート 班活動 実験等 問題集
確認	定期テスト 小テスト 単元テスト 実技テスト
分析	レポート、 自由研究

指導目標	音楽活動の美しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
評価観点	知識・技能 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱、器楽で表すことができる。様々な音楽を聴き、その音楽の背景や作曲者について学び、その音楽の持つ特徴や美しさを味わうことができる。
	思考・判断 表現 音楽に必要な基礎知識を生かして、より深く音楽を感じ取り表現活動を工夫する。音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わうことができる。
	主体的に取り 組む態度 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	楽譜に書かれた記号を確認しながら歌う。	日本の歌曲：「浜辺の歌」	観察 点検	授業態度 ペアワーク 発表 ワークシート 発言内容
	基本的な歌唱法を確認し、自分の学校の校歌や、歌唱曲を歌えるようになる。	歌：「校歌」「主は冷たい土の中に」 「We' ll Find The Way」		
	アルトリコーダーの奏法や、音の出る構造を学習し、曲を吹けるようにする。	リコーダー：「喜びの歌」 「メリーさんのひつじ」 「かっこう」「オーラリー」		
	曲想の変化を感じ取り、班で物語を作る。	鑑賞：「四季」		
	基本的な音楽知識を理解する。	楽典「譜表・音符・休符・階名」		
2 学 期	発音を意識して、表情豊かに歌う。	日本の歌曲：「赤とんぼ」	確認	実技テスト 筆記テスト
	自分の学校の校歌を表情豊かに歌う。	歌：校歌		
	サミングの音の出し方を学習し、演奏する。	リコーダー：「アニーローリー」		
	基本的な音楽知識を理解する。	楽典「譜表・音符・休符・階名」		
3 学 期	クラスでひとつの合唱をつくる。	歌：「合唱曲」	分析	実技テスト 筆記テスト
	低い音と高い音を、上手に使い分けできるようにする。	リコーダー：アンサンブル		
	歌い方の違いを聞き取り、曲について学習する。	鑑賞：「魔王」		
	テーマに沿ったメロディーをつくる。	創作活動		
	和楽器について学習し、箏を演奏する。	鑑賞：箏、尺八		

指導目標	音楽活動の美しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
評価観点	知識・技能 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱、器楽で表すことができる。様々な音楽を聴き、その音楽の背景や作曲者について学び、その音楽の持つ特徴や美しさを味わうことができる。
	思考・判断 表現 音楽に必要な基礎知識を生かして、より深く音楽を感じ取り表現活動を工夫する。音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わうことができる。
	主体的に取り 組む態度 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	楽譜に書かれた記号を確認しながら歌う。	歌：校歌・夢の世界を	観察 点検	授業態度 ペアワーク 発表 ワークシート 発言内容
	情景を思い浮かべながら、言葉を大切に歌う。	「夏の思い出」		
	息の量の調節をする技術を身につけ、美しい音で演奏する。	リコーダー：「ラヴァーズコンチェルト」		
	楽器の音の出る仕組みを理解し、音の重なり方を学習する。	鑑賞：「フーガ短調」		
	楽譜を読む力を身につける。	楽典：「変化記号」		
2 学 期	イタリア語の発音について学習し、曲想を生かして表情豊かに歌う。	歌：「サンタルチア」	確認	実技テスト 筆記テスト
	オクターブの跳躍を美しく、表情豊かに演奏する。	リコーダー：「威风堂々」		
	オペラに親しみ、いろいろな表現方法を知る。	鑑賞：「アイーダ」	分析	実技テスト 筆記テスト
	クラスでひとつの合唱曲を作る	歌「合唱曲」		
3 学 期	クラスでひとつの合唱曲を作る。	歌：「合唱曲」		
	曲に沿った奏法を身につける。	リコーダー「虹の彼方に」		
	曲の構成に注目して曲想の変化を味わう。	鑑賞：「運命」		
	班で構成を工夫して、言葉によるリズムアンサンブルを創る。	創作活動		
	両手両指を自在に使った奏法を身に付ける	ギター「カントリーロード」		

指導目標	音楽活動の美しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
評価観点	知識・技能 創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身につけ、歌唱、器楽で表すことができる。様々な音楽を聴き、その音楽の背景や作曲者について学び、その音楽の持つ特徴や美しさを味わうことができる。
	思考・判断 表現 音楽に必要な基礎知識を生かして、より深く音楽を感じ取り表現活動を工夫する。音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、解釈したり価値を考えたりして、よさや美しさを味わうことができる。
	主体的に取り 組む態度 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽に対する関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとしている。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	楽譜に書かれた記号を確認しながら歌う。	校歌	観察 点検	授業態度 ペアワーク 発表 ワークシート 発言内容
	情景を思い浮かべながら、言葉を大切に、2部合唱をする。	歌：校歌・「花」		
	ブレスの位置を確認し、歌を歌うように流れを意識して演奏する。沖縄文化を理解して演奏する。	リコーダー：「I Got Rhythm」		
	曲の背景を理解し、音楽を鑑賞して深める。	鑑賞：「ブルタバ」「ボレロ」		
2 学 期	イタリア歌曲(応用編)を表情豊かに歌おう。	歌：「帰れソレントへ」	確認	実技テスト 筆記テスト
	曲に合った奏法を身につける。	リコーダー：「名曲スケッチより」		
	日本を含めた世界の音楽について知る。	鑑賞：「世界の音楽」「雅楽」	分析	実技テスト 筆記テスト
	音楽の歴史について学習し、音楽の流れを理解する。	楽典・音楽史		
	クラスでひとつの合唱曲を作る。	歌：「合唱曲」		
3 学 期	クラスでひとつの合唱を創る。	歌：「合唱曲」		
	リコーダーやギターでアンサンブルを演奏する。	ギター・リコーダー「笑点のテーマ」		
	歌詞の抑揚を生かして旋律をつくる。	創作活動		

【技術分野】

指導目標		技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
	思考・判断 ・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
	主体的に取り 組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習計画		
時期	単元目標（身につける力）	教材名
1 学期	A 材料と加工の技術 基礎的知識の習得	教科書 1 編 1 章
	製図に関する技能の習得	教科書 1 編 2 章
	課題を設定し、製作図に表現し、解決する力の習得	教科書 1 編 2 章
2 学期	生活の中から問題を見だし評価する力の習得	材料と加工レポート
	設定した課題を解決する力の習得	木材製品の製作実習
3 学期	実践の評価・改善する力の習得	製作実習振り返り
	適切かつ誠実に技術を工夫し創造する力の習得	教科書 1 編 3 章

評価にあたって	
評価の場面・方法	
観察 点検	実技実習の観察 ハンドノート レポート・製図プリント
	確認 実習作品の確認 製図の確認 定期テスト
分析	実習計画書 実習振り返り

【家庭分野】

指導目標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
	思考・判断 ・表現	家族・家庭における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
	主体的に取り 組む態度	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習計画		
時期	単元目標（身につける力）	教材名
1 学期	B.衣食住の生活	教科書 1 編 1 章
	食事の役割と中学生に必要な栄養素がわかる。 日常食の調理ができる。	教科書 1 編 2 章
	地域の食文化についてわかる。	教科書 1 編 3 章
2 学期	食生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 を習得する。	
	食生活の中から問題を見いだして課題を設定 し、解決しようとする力を習得する。	教科書 1 編 4 章

評価にあたって	
評価の場面・方法	
観察 点検	実技・実習の観察 ハンドノート レポート
	確認 実習レポート 定期テスト
分析	実習報告書 実習振り返り

【技術分野】

指導目標		技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
	思考・判断 ・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
	主体的に取り 組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習計画		
時期	単元目標（身につける力）	教材名
1 学期	B生物育成の技術 基礎的技術の習得	ミニトマトの栽培
	生物育成の知識・技能の習得	教科書2編1章・2章
	生物育成の実践の評価	育成記録と振り返り
2 学期	生物育成の技術の工夫・創造する力の習得	レポート、教科書2編3章
	D情報の技術 基礎的知識・技能の習得	教科書4編1章
	情報の技術の課題を設定し解決する力の習得	教科書4編2章
3 学期	情報の技術の課題を設定し解決する力の習得	教科書4編3章
	情報の技術の工夫・創造する力の習得	教科書4編4章

評価にあたって	
評価の場面・方法	
観察 点検	実習の様子 ハンドノート レポート・プリント
	栽培レポート 情報レポート 定期テスト
分析	実習計画書 実習振り返り

【家庭分野】

指導目標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
	思考・判断 ・表現	家族・家庭における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
	主体的に取り 組む態度	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習計画		
時期	単元目標（身につける力）	教材名
1 学期	B衣食住の生活	教科書2編私たちの衣生活
	衣服の働きや手入れの方法を理解することができる。	お名前ワッペン製作
	布を用いた製作を行う技術の習得ができる。	
2 学期	B衣食住の生活	教科書2編私たちの住生活
	家族の生活と住空間についての関わりを理解すること	エコバッグの製作
	ができる。生活の中から問題を見だし解決する力を	
3 学期	身に付けることができる。	教科書4編私たちの消費生
	C消費生活・環境	活と環境
	消費生活に関する基礎的な知識の習得ができる	家計マスターシール

評価にあたって	
評価の場面・方法	
観察 点検	実習の様子 ハンドノート レポート・プリント
	実習レポート 定期テスト
分析	実習報告書 実習振り返り

【技術分野】

指導目標		技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
	思考・判断 ・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
	主体的に取り 組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習計画		
時期	単元目標（身につける力）	教材名
1 学期	Cエネルギー変換の技術	
	エネルギー変換の基礎技能の習得	ラジオ製作練習基盤実習
	エネルギー変換の基礎的な知識の習得	教科書3編1章、2章
2 学期	エネルギー変換の課題解決する力の習得	電気に関するレポート
	エネルギー変換の技能の習得	ラジオ製作実習
	適切かつ誠実に技術を工夫し創造する力の習得	教科書3編3章
3 学期	D情報の技術	
	情報の課題設定と解決する能力の習得	教科書4編2章

評価にあたって	
評価の場面・方法	
観察 点検	実技実習の観察 ハンドノート レポート・プリント
確認	実習作品の確認 定期テスト
分析	実習計画書 実習振り返り

【家庭分野】

指導目標		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
	思考・判断 ・表現	家族・家庭における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
	主体的に取り 組む態度	自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

学習計画		
時期	単元目標（身につける力）	教材名
1 学期	A家族・家庭生活	教科書5編1章
	家族、家庭の基本的な機能について理解することができる。地域の一員として生活をより	私たちの生活と家族・家庭
	よくすることができる。	家庭生活と地域の関わり
2 学期	家庭生活についての問題を見だし、課題を	教科書5編2章
	持って解決することができる。	幼児の体と心の発達
		生活習慣と遊び
3 学期	B衣食住の生活	被服にかかわる製作
	生活を豊かにするための布を用いた製作における技術の習得ができる。	

評価にあたって	
評価の場面・方法	
観察 点検	ハンドノート レポート プリント
確認	実習作品の確認 定期テスト
分析	実習報告書 実習振り返り

指導目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方をはたらかせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。	
評価観点	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事実を捉える造形的な視点について理解している。 意図に応じて表現活動を工夫して表している。
	思考・判断 表現	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かな発想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。
	主体的に取り 組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名「美術1」「感じる表す美術」	評価の場面・方法	
1 学 期	○年間の目標を立て、見通しを持つ。	オリエンテーション	観察 点検	宿題 提出物 作品 ペアワーク グループワーク 発表 机間巡視
	○原始美術の造形的なよさや美しさ、当時の人々の願いや、作者の意図と工夫、美術文化について考える。	「屏風、美の仕掛け」		
	○身近なものの特徴や、イメージなどをもとに、形や色彩、質感などを、紙粘土とポスターカラーを用いて表現する。	「じっくり見ると見えてくる」 ※食品サンプル制作		
	○自分の作品と友達の作品を鑑賞する。	自分の作品をふりかえる		
2 学 期	○色彩の持つ性質、感情を構成美のバランスや使用するポスターカラーの特性や使い方を学び、条件に沿って考えたこと、感じたことを表現する。	「色彩の基本、仕組み」 「水彩で描く」 ※ポスターカラーの練習、色彩学	確認	作品 提出物 定期テスト
	○文字の持つ意味にさらに思いや考えを加えて主題を生み出し、見る人に伝わるようなわかりやすさと美しさの調和を考えて構想を練る。	「文字っておもしろい」	分析	作品 提出物 定期テスト
○ポスターカラーを使って技法などを工夫し、自分の構想を具体化するための工夫をする。	「文字のデザイン」 ※絵文字制作			
3 学 期	○連続模様の美しさを考えて作る。彫刻刀を使って彫るので作業や材料の特性を考えて見通しを持って創造的に制作する。	「広がる模様の世界」 ※消しゴムはんこ		
	○自分の作品と友達の作品を鑑賞する。	自分の作品をふりかえる		

指導目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方をはたらかせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。
評価観点	知識・技能 対象や事実を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。
	思考・判断 表現 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独自の・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し発想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。
	主体的に取り 組む態度 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造しようとしている。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名「美術1」「美術2・3」「美術資料」	評価の場面・方法	
1 学 期	○年間の目標を立て、見通しを持つ。	オリエンテーション	観察 点検	宿題 提出物 作品 ペアワーク グループワーク 発表 机間巡視
	○形や色彩、構成美の要素などの特徴を理解して、効果的に表現するための構成を工夫し、心豊かに表現する。	「心のイメージを形に」「構成美の要素」 ※画面構成		
	○自分の作品と友達の作品を鑑賞する。	自分の作品をふりかえる		
2 学 期	○日本の伝統工芸にふれ、人の手による技の素晴らしさや作品の美しさを通じて、生活の中の美術や文化を考える。	「手から手へ受け継ぐ」 ※鑑賞	確認	作品 退出物 定期テスト
	○展示することを想定して、形や色彩、材料の持つ性質を良く理解して構成や装飾を考える。見通しを持って制作する。	「ジジジチカピカポッポッパッ」 ※ランプシェード制作	分析	作品 退出物 定期テスト
○自分の作品と友達の作品を鑑賞する。	自分の作品をふりかえる			
3 学 期	○材料のよさや美しさ、使う場面や機能などをもとに、材料の特性や効果を考えて制作する。	「つくって使って味わう工芸」 ※木彫制作		
	○友達の作品を見て対象から感じられるよさや美しさ、作者の関心や発想作品に込められた心情、意図を考えて自分としての根拠を持って読み取り、言葉にして発表し、友達の意見に共感したり、そこから自分の意見を整理したり、新しい発見をする。	「絵の中をよくみると」 ※友達の作品を鑑賞して意見を伝えよう。		

指導目標		表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表す ことができている。
	思考・判断 表現	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独自の・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に 対する見方や感じ方を深めたりすることができている
	主体的に取り 組む態度	主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造しようとしている。

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	○一年間の目標を立て、見通しをもつ。	「美術2.3上下」 「感じる・表す・美術」 オリエンテーション	観察 点検	宿題 提出物 作品 ペアワーク グループワーク 発表 机間巡視
	○自己を見つめて考えたこと、想像や空想の世界の考えを広げ、単純化、省略、強調などの工夫を通して表現する。 ○点描の技法を使って自分が考えた主題をいかに見る人に伝えるか工夫する。	「空想は現実を超えて」 ※空想画（3D アート）制作		
2 学 期	○使う場面や飾る場所、思いなどをもとに、形や色彩、材料の効果を考え、作品制作をする。 ○材料、用具の特性を考えて計画を立てて作業を進める	「自分へ贈る卒業記念品」 ※卒業制作	確認	作品 提出物 定期テスト
	○自分の作品を発表し、友達の作品を鑑賞する。 友達の意見を聞いて自分の作品をもう一度みてる。	「自分の作品を振り返る」		
3 学 期	○友達と意見を出しあったアイデアなどをもとに形や色彩、動きの効果を考え構想を練る。 ○伝えたい場面やイメージなどをもとに、コマ割りや構図の効果などを考え表現する。	「仲間との交流の中から」 「動きを生かして印象的に」 ※グループアニメーション制作	分析	作品 提出物 定期テスト
	○自分の作品を発表し、友達の作品を鑑賞する。 友達の意見を聞いて自分の作品をもう一度見てる。	「自分の作品を振り返る」		

指導目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けている。
	思考・判断 表現 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
	主体的に取り組む態度 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

学習計画		
時期	単元目標（身につける力）	教材名
1 学 期	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、心と体をほぐしたり、体力を高めたりする。	体づくり運動
	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。	陸上競技
	技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。	器械運動
	それぞれの泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わう。	水泳
	心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。	保健
2 学 期	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。	陸上競技
	基本動作や基本となる技を身に付ける。	柔道
	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的なボールや用具、バットなどの操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。	球技
	心身の機能の発達と心の健康について理解できるようにする。	保健
	健康な生活と病気の予防について理解できるようにする。	保健
3 学 期	長距離走では、自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりできるようにする。	陸上競技（持久走）
	イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流ができるようにする。	創作ダンス

評価にあたって	
評価の場面・方法	
観察 点検	課題プリント レポート提出 行動観察 授業態度
確認	実技テスト 定期テスト ワークシート
分析	計測記録 取り組み状況 課題・レポート内容

指導目標		体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けている。
	思考・判断 表現	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
	主体的に取り 組む態度	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

学習計画		
時期	単元目標（身につける力）	教材名
1 学 期	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、心と体をほぐしたり、体力を高められるようにする。	体づくり運動
	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。	陸上競技
	技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。	器械運動
	それぞれの泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わう。	水泳
	生活習慣の健康へのについて理解できるようにする。	保健
2 学 期	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けることができるようにする。	陸上競技
	技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。	武道（柔道）
	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的なボールや用具、バットなどの操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。	球技
	傷害の防止について理解を深めることができるようにする。	保健
3 学 期	長距離走では、自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりできるようにする。	陸上（持久走）
	感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表ができるようにする。	現代的なリズムのダンス

評価にあたって	
評価の場面・方法	
観察 点検	課題プリント レポート提出 行動観察 授業態度
確認	実技テスト 定期テスト ワークシート
分析	計測記録 取り組み状況 課題・レポート内容

指導目標		体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力を育成することを目指す。
評価観点	知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けている。
	思考・判断 表現	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
	主体的に取り 組む態度	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

学習計画		
時期	単元目標（身につける力）	教材名
1 学 期	各種目特有の技能を身に付ける。	陸上競技
	自己に適した技を見付けるなど、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。	器械運動
	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、効率的に泳ぐことに自主的に取り組めるようにする。	水泳
	感染症の予防と健康を守る社会の取り組みについて理解を深めることができるようにする。	保健
2 学 期	記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、効率的に泳ぐことに自主的に取り組めるようにする。	水泳
	各種目特有の技能を身に付ける。	陸上競技
	作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームが展開できるようにする。	球技
	長距離走では、自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりできるようにする。	陸上競技（持久走）
	環境の健康への影響について理解を深めることができるようにする。	保健
	長距離走では、自己のスピードを維持できるフォームでペースを守りながら、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり競走したりできるようにする。	陸上競技（持久走）
3 学 期	作戦に応じたボール操作で仲間と連携してゲームが展開できるようにする	球技
	健康・安全を確保しながらダンスに自主的に取り組む。交流や発表などの話し合いに貢献し、助けあったり教え合いができるようにする。	現代的なリズムのダンス

評価にあたって	
評価の場面・方法	
観察 点検	課題プリント レポート提出 行動観察 授業態度
確認	実技テスト 定期テスト ワークシート
分析	計測記録 取り組み状況 課題・レポート内容

指導目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す
評価観点	知識・技能 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている
	思考・判断 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている
	主体的に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	小学校の学習した内容を基に4文以上使って自己紹介できたり、アルファベットの大文字と小文字を書けたり、アルファベットの音読みを言えるようになる	Sunshine 1 Get ready Program 0	観察 点検	宿題 机間巡視、ノート ペアワーク、問題集 音読練習、提出物
	自分や相手のことを表現できたり、6文以上使って自己紹介を言えるようになる	Program 1		
	自分の普段することを言えたり、相手に普段することをたずねたり、相手からの普段することの質問に答えられるようになる	Program 2		
	自分ができることや相手ができることを言えたり、相手にできることをたずねたり、相手からのできることの質問に答えられるようになる	Program 3	確認	定期テスト 単語テスト 文法テスト 小テスト
	内容を整理して、まとまりのよいスピーチを言えるようになる	Our project 1		
2 学 期	身の回りのものを紹介したり、たずねたり、自分と相手以外の人の紹介を言えるようになる	Program 4	分析	Speaking test Writing test Reading test Listening test
	自分と相手以外の人がすることしないこと、またそれについてたずねたり答えを言えるようになる	Program 5		
	人について「～を」「～に」と言えたり、理由をたずねたり、それに答えられるようになる	Program 6		
	人やものの存在について言えたり、どのようにするのかたずねたり答えられるようになる	Program 7		
	話す順序をよく考えて、自分が紹介したい人について話せるようになる	Our project 2		
3 学 期	自分や相手や他人が今していることについて言えたり、今していることをたずねたり、答えられるようになる	Program 8		
	過去にしたことについて言えたり、相手や他人が過去にしたことについてたずねたり、答えられるようになる	Program 9		
	過去の状態について言えたり、過去のあるときにしていたことを言えたり、たずねたり、答えられるようになる	Program 10		
	自分が選んだ絵や写真について、メモを利用しながら、わかりやすいスピーチを言えたり、聞き手のスピーチに対してコメントしたり、積極的に質問のやりとりが言えるようになる	Our project 3		

指導目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す
評価観点	知識・技能 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている
	思考・判断 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている
	主体的に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に取り組む態度で外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1 学 期	過去にしたことについて言えたり、相手や他人が過去にしたことについてたずねたり、答えられるようになる 過去の状態について言えたり、過去のあるときにしていたことを言えたり、たずねたり、答えられるようになる	Sunshine 1 Program 9 Program 10	観察 点検	宿題 机間巡視、ノート ペアワーク、問題集 音読練習、提出物
	未来の予定や計画について言えたり、それをたずねたり、答えられたり、いつ何をするのか、条件の内容について相手に伝えられるようになる	Sunshine 2 Program 1		
	自分の考えを言えたり、義務や命令について言えたり、必要性について言えたりするようになる	Sunshine 2 Program 2	確認	定期テスト 単語テスト 文法テスト 小テスト
	自分や相手、他人がしたいことや動作について言えたり、行動の目的や何をするためのものかを言えるようになる	Sunshine 2 Program 3		
	グループで協力して、「夢の旅行」を企画し、聞き手にわかりやすく伝えるようになる	Sunshine 2 Our Project 4		
2 学 期	大きさや程度を比べて、どちらが上か下か、またどれが一番上か下かを言えたり、同じ程度のものや人について言えるようになる	Sunshine 2 Program 4	分析	Speaking test Writing test Reading test Listening test
	何かの仕方や人やものの様子をより具体的に言えたり、誰かに何かをすることを言えるようになる	Sunshine 2 Program 5		
	人やものがされていることやされたことについて言えるようになる	Sunshine 2 Program 6		
	こんな人になりたいという人物について読み手にわかりやすいポスター記事を書けるようになる	Sunshine 2 Our Project 5		
3 学 期	すでにしてしまったことや今ちょうどし終えたことを言えたり、もう何かをし終えたかどうかをたずねたり、答えたり、これまでに経験したことがあるかどうか言えるようになる	Sunshine 2 Program 7		
	過去から現在まで続いていることまたは続けていることについて言えるようになる	Sunshine 2 Program 8		
	この1年で得た「宝もの」について聞き手にわかりやすく伝えるスピーチを言えるようになる	Sunshine 2 Our Project 6		

指導目標		外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通じて、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指す
評価観点	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている
	思考・判断	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている
	表現	外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている
	主体的に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に取り組む態度で外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている

学習計画			評価にあたって	
時期	単元目標（身につける力）	教材名	評価の場面・方法	
1学期	すでにしてしまったことを言えたり、もう何かをし終えたかどうかをたずねたり、答えたり、これまでに経験したことがあるかどうか言えたり、過去から現在まで続いていることまたは続けていることについて言えるようになる	Sunshine 2 Program 7,8	観察 点検	宿題 机間巡視、ノート ペアワーク、問題集 音読練習、提出物
	誰かに何かを頼む時の言い方やだれかが何かすることが「難しい」などと言えたり、「～が心配だ」などのような自分の考えを言えるようになる	Sunshine 3 Program 1		
	「だれがどこでどうしたかを覚えている」などと言えたり、「だれかにどこにいるかを聞く」などと言えたり、「だれかが人に～と言った」などと言えるようになる	Sunshine 3 Program 2	確認	定期テスト 単語テスト 文法テスト 小テスト
2学期	人やものの呼び方などが言えたり、「だれかを眠くさせる」などと言えたり、「だれかに～させる」などといえるようになる	Sunshine 3 Program 3	分析	Speaking test Writing test Reading test Listening test
	記者会見の目的に沿って、聞き手にわかりやすいスピーチをしたり、会見の要点を聞き取ったり、質問したり答えたりするようになる	Sunshine 3 Our Project 7		
	今何かをしている人やもののくわしい説明が言えたり、何かさされているもののくわしい説明が言えるようになる	Sunshine 3 Program 4 Program 5		
	別の言い方で人やもののくわしい説明が言えるようになる	Program 5 Program 6		
3学期	地元のものを外国の人にPRする台本を考え、自分の町を聞き手にわかりやすく伝えるようになる	Sunshine 3 Our Project 8		
	「もしだれかが～だったら」や「～だったらよかったのに」と仮定した言い方を言えるようになる	Sunshine 3 Program 7		
	入試対策	3年間の総まとめ 問題集		
	中学校の思い出について、今まで学習した表現を使って、聞き手にわかりやすく伝えるようになる	Sunshine 3 Special Project		